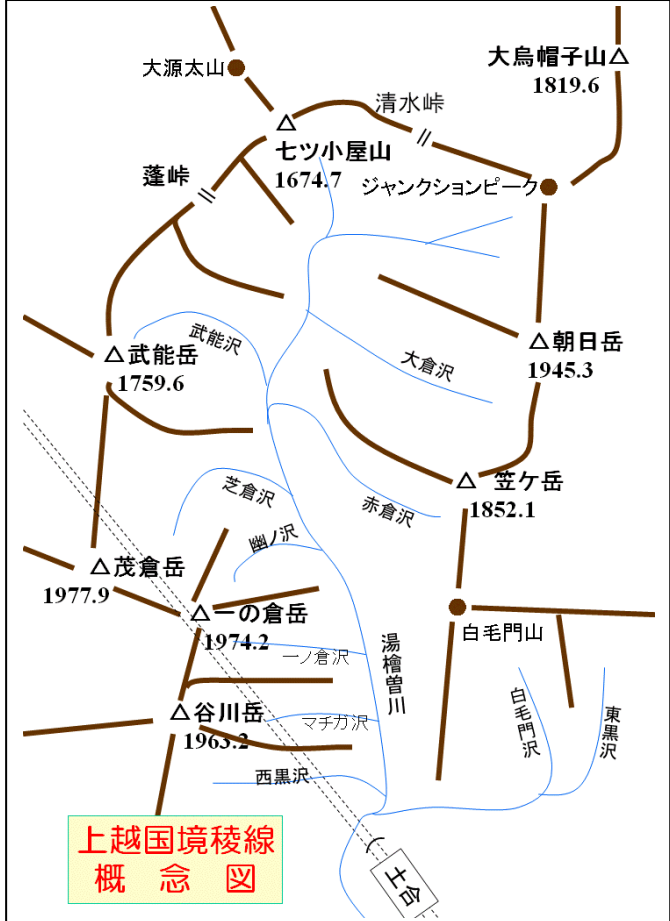


踏み跡 <My Mountains>

清水峠、三国峠を知っている人はいても蓬峠を知っている人は少ない。
 上州から越後への峠路は、現在は国道 17 号線の三国峠となっているが、その昔は清水峠だったらしい。
 清水峠は湯檜曾川に沿って登りつめたところにあり、峠を越えると六日町の在に出ることができる。
 蓬峠はこの清水峠よりわずかに西にあり、越後に下ると土樽に出る。蓬峠越えの道は古くからの峠越えの街道ではなく、新しく出来た登山路かまたは、別な目的で切り開かれた道ではないかと思う。蓬峠の越後側にある土樽は何もない河原と谷だけだし、一筋の道を北に辿っても中里を経て湯沢に至るまでは辺境と言えるような何もないところだから。
 史実はともかく、峠を越えて隣の国へ入る旅というのは何とはなしに心弾むものである。
 会社の WV 部で一緒だった K さんが同行。

昭和 45 年 7 月 22 日
 上野発 22 時 12 分、通勤客で満員の上越線の終列車に乗車。鴻ノ巣でようやく座席にありつくことができた。車内が明るすぎてあまりよく眠れない。

昭和 45 年 7 月 23 日
 2 時 59 分土樽駅で下車。例によって駅舎で一時間ほどの仮眠。平日なので客の数は少ない。
 4 時出発。夏の朝は早く、4 時にはもうほとんどの物が明るさを持ち始める。
 歩き馴れた蓬峠への道をゆっくり進む。夜明けを知った鳥たちの鳴き声に迎えられて歩くのは実に気分が良い。越後側はどんよりした曇り空で、あまりぱっとしない。
 上州側の天気はいかに？と期待を持って立った蓬峠からの眺望は、残念な空模様だった。
 谷川岳東面の岩場が鮮やかに見えない蓬峠はどこか物足りない感じがする。
 下山路の湯檜曾川の溪流は一見の価値がある。一滴のしずくがひとつの小さな流れになり、やがて大海に向かって行く姿を歩いて確かめることができる。
 寝ざめの床を思わせるような溪流の美しさに目を奪われているうちに、カタズミ岩、シンセンの岩場が少しだけ姿を見せてくれた。
 やがて右手に一ノ倉沢、マチガ沢を見るようになり、清水トンネルの複線化によってできたモダンな佇まいの土合駅に到着。七月にしては静かな山旅だった。



以上